

都道府県名	広島県
-------	-----

学校の概要

学校名	沼隈町立千年小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	2	2	2	2	2	2	2	14	22
児童数	54	51	44	55	60	46	6	316	

実践研究の課題

1. 主題(テーマ)

基礎・基本を大切にし、自ら学び自ら考える児童の育成
国語科・算数科の指導方法・カリキュラム等の工夫を通して

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

実施学年：全学年

教 科：国語・算数

理 由：教科に対する意識調査、学力調査テストを実施する中で、中学校への移行を滑らかにを行うためには、算数・国語の基礎・基本の定着が必要だと考えたから。

(2) 年次計画

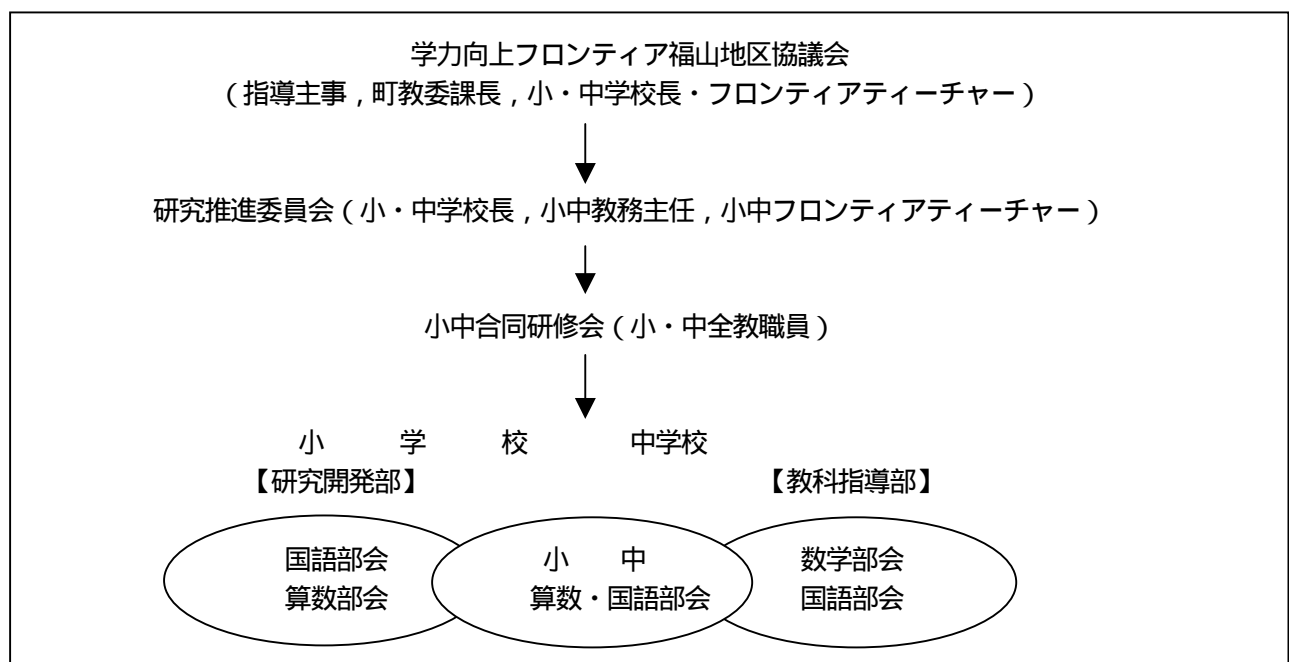
平成14年度	<p>テーマ</p> <p>国語：言葉を大切にし、伝え合う子を育てる指導の工夫 書く活動を通して</p> <p>算数：基礎・基本を大切にし、自ら学び自ら考える子を育てる指導の工夫 数量や図形についての算数的活動を通して</p> <p>連携：小学校から中学校への滑らかな移行 仮説</p> <p>国語：書く活動において、目的や意図、相手に応じて適切な言葉を選んで使って表現する場を設定し、自分の考えを伝え合う学習活動を工夫することにより、言葉を大切にし、伝え合う子が育つであろう。</p> <p>算数：学習過程において、算数的活動を取り入れることによって、子どもの活動が主体的になり、数学的な考え方や基礎・基本の考えが身につくであろう。</p> <p>連携：小学校から中学校への移行を滑らかに行うには小学校と中学校が不連続であってはいけない。教科担任制等の特性を生かした指導体制の工夫を行うとともに児童・生徒の実態に基づくカリキュラム作り、授業や行事を通しての児童・生徒の交流活動の充実、授業を通して教職員の児童・生徒への理解が深まれば不連続は起きず、滑らかに移行できるであろう。</p> <p>研究内容・方法</p> <p>国語：・意識調査、学力テスト、「説明文」に対する実態調査 ・授業研究実施(作文単元) ・書く力に必要なスキルの年間計画表作成 ・短作文・ワークシート・ポストイットを活用した作文指導法の工夫 ・帯時間の工夫 ・書く活動と他教科の連携</p>

平成14年度	<p>算数：・算数的活動活用の年間計画表</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業研究の実施（算数的活動を取り入れた） ・中学年における少人数指導，習熟度別授業の実施 ・帯時間に活用するステップカードの作成 ・年度末の学力到達テストの実施 ・小・中連携による「数と計算領域」におけるマップ作り ・「出前授業」の実施 <p>連携：・小学校6年生，中学校1年生への中学校入学前の入学に対する意識調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校における教科担任制の実施 ・小学校・中学校での学力テストの実施と分析 ・小学校児童と中学校生徒の交流活動
--------	--

平成15年度	<p>テーマ</p> <p>国語：書くことの指導において，進んで自己表現をしようとする子どもを育てるために，書く内容を豊かにもち，見通しをもって書いていくための取材カードの活用と話し合い活動を取り入れることの有効性を明らかにする。</p> <p>算数：各領域において，数学的な考え方を育てるために算数的活動を取り入れることや学習のまとめの段階での「構造マップ」を作成，活用することの有効性を明らかにする。</p> <p>連携：小学校から中学校への滑らかな移行 小・中連携で育てる滑らかな移行</p> <p>仮説</p> <p>国語：・取材と選材の過程に工夫した取材カードや話し合い活動を取り入れれば，書く材料が豊かになり，多様な見方や考え方ができるようになるであろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・構想の過程で，書きとめた取材シートの順序を入れ替えるなどして組み立てを考えれば，工夫した文章構成を考えることができるであろう。 ・書くことを生かす場や機会を作れば，進んで自己表現をしようとするであろう。 <p>算数：・単元の導入段階において，算数的活動を効果的に取り入れることにより，児童が自主的・意欲的に学習に取り組み，数学的な考え方が身につくであろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習のまとめの段階において「構造マップ」を書くことにより，自己評価を行えば学習の内容がより定着するであろう。 ・単元に応じて指導形態を工夫し，個に応じた指導を行えば，基礎・基本の学力が定着するであろう。 <p>連携：小学校における教科担任制の充実と小中連携による授業の充実，児童・生徒の異学年交流の推進を行うならば，確かな学力が身につく，小学校から中学校への移行が滑らかに行えるであろう。</p> <p>研究内容・方法</p> <p>国語：・書くことの活用の場作り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・書くことを生かす他教科との関連を図ったカリキュラム作り ・工夫した取材カードや話し合い活動，工夫した構成シートを取り入れた授業研究の実施 ・帯時間の活用（書くことを定着させる） ・工夫した取材カードや話し合い活動，工夫した構成シートを取り入れた単元や教材の開発 <p>算数：・算数的活動を取り入れた授業の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・構造マップの活用 ・基礎・基本を定着させる繰り返し学習のあり方 ・指導方法の工夫改善 教科担任制，T・T指導，習熟度別指導，少人数指導 <p>連携：・教科担任制のあり方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小中9年間のカリキュラム ・小中異学年の交流のあり方 ・「出前授業」の充実
--------	--

平成16年度	<p>テーマ</p> <p>国語：書くことの指導において，思考力や認識力を育てるために，取材カード・他者の視点を取り入れることの有効性を明らかにする。</p> <p>算数：各領域において，数学的な考え方を育てるために，算数的活動を取り入れることや「構造マップ」を活用することの有効性を明らかにする。</p> <p>連携：確かな学力を身につけ，小学校から中学校へ滑らかな移行を行うために，小学校における教科担任制の充実と小中連携による授業の充実，児童・生徒の異学年交流の有効性を明らかにする。</p> <p>仮説</p> <p>国語：・取材と選材の過程に工夫した取材カードや話し合い活動を取り入れれば，思考力や認識力が育つであろう。</p> <p>・他者の視点を取り入れることで，自分の思いを相手に伝えるための確かな表現をすることができるであろう。</p> <p>・書くことを生かす場や機会を工夫すれば，進んで自己表現をしようとするであろう。</p> <p>算数：・算数的活動や「構造マップ」を効果的に活用することにより数学的な考え方が育つであろう。</p> <p>・形成的評価や指導体制を工夫することにより，基礎・基本の力が身につくであろう。</p> <p>連携：小学校における教科担任制の充実と小中9年間を見通したカリキュラムに基づく授業の充実，児童・生徒の異学年交流の推進を行うならば，確かな学力が身につく小学校から中学校への滑らかな移行が行えるであろう。</p> <p>研究内容，方法</p> <p>国語：・思考力や認識力を高めるための取材カード・話し合い活動のあり方</p> <p>・確かな表現力を身につけるための他者の視点の取り入れ方</p> <p>・書くことを生かす場や機会のあり方</p> <p>・帯時間の活用のあり方</p> <p>算数：・数学的な考え方を育てるための算数的活動のあり方</p> <p>・数学的な考え方を育てるための構造マップの活用の仕方</p> <p>・基礎・基本を定着させるための形成的評価のあり方</p> <p>・基礎・基本を定着させるための指導法の工夫</p> <p>連携：・「出前授業」の充実</p> <p>・小中9年間のカリキュラム</p> <p>・小中異学年の交流のあり方</p> <p>・「出前授業」の充実</p>
--------	---

(3) 研究推進体制



Ⅲ 平成15年度の研究成果及び今後の課題

1 研究の成果

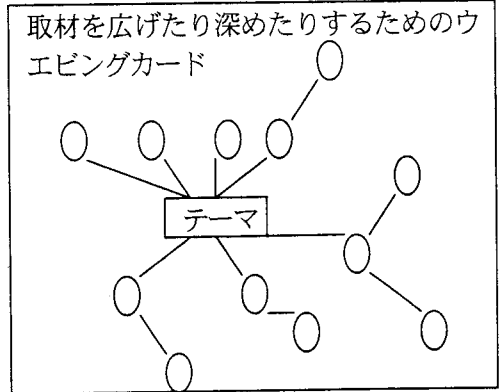
(1) 国語科における取り組み

仮説1 取材と選材の過程に工夫した取材カードや話し合い活動を取り入れれば、書く材料が豊かになり多様な見方や考え方ができるようになるであろう。

【取材カードの工夫】

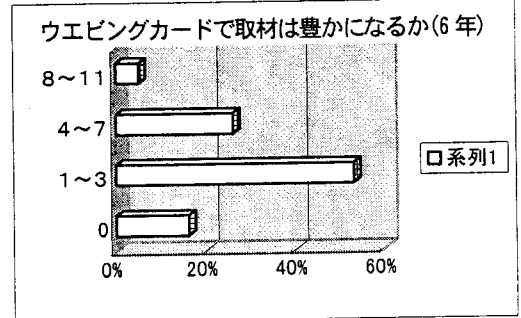
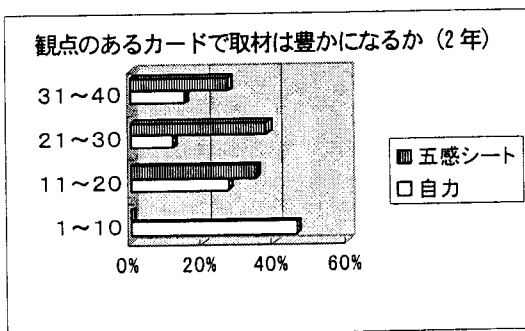
書く材料を豊かにするための五感カードや観点カード

絵	におい(はな)	絵	さわったかんじ(手)	絵	目で見る(目)	見つけたよカード二年 五感を使ってざいりようをあつめよう。
絵		分かったよ	こんなことが	絵	何が聞こえる(耳)	



【観点のあるカードで取材を豊かにする】

五つの観点(見る・さわる・におう・聞く・発見したこと)を示した五感カードやウエビングカードを使うことで自力で取材したときに比べ、どの児童も取材の項目数や観点を増やすことができた。

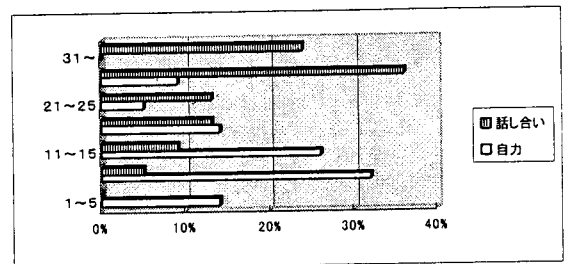


【話し合い活動で多様な見方や考え方をする】

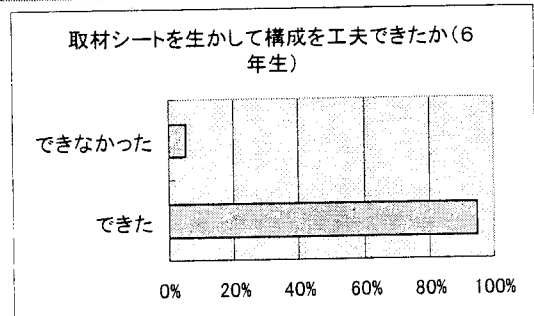
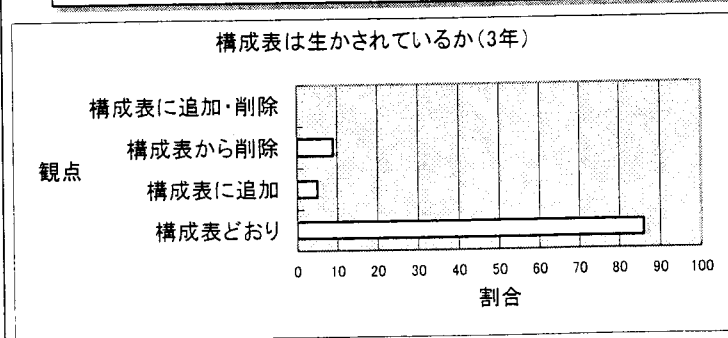
話し合い活動を取り入れることにより自力で集材したときに比べ取材数の少ない児童が減り反対に取材数の多くなった児童が増えた。

これらのことから、観点を示した取材カードや、観点を広げるウエビングマップ、取材後の話し合い活動は、書く材料を豊かにし、多様な見方や考え方を培うのに有効な方法であるといえる。

話し合い活動で取材は豊かになるか(3年)



仮説2 構想の過程で、書きとめた取材シートの順序を入れ替えるなどして組み立てを考えれば、工夫した文章構成を考えることができるであろう。



取材した内容を観点ごとにまとめた構成シートをもとに、順序を入れ替えながら相手に分かりやすい文章構成を工夫したという児童が6年生では90%いる。また、構成について話し合いをした後に構成表を作り作文を書いたとき、書く過程で追加や削除をする児童が0%になった。

構成の前に話し合いをしたことで、86%の児童が構成どおり叙述できた。構成シートを移動させたり、話し合い活動をするのは工夫した文章構成をするのに有効であるといえる。

仮説3 児童が生き生きと活動する場や機会を作れば、進んで自己表現をしようとするであろう。

国語科で学習した、手紙、新聞、観察文、紹介文等の書き方を生かして、総合的な学習や社会、理科、生活科など他教科との関連を図った取り組みをすることで、児童は他教科でも書くことを生かせたと感じている児童が多いことが分かった。国語科で学んだことを生かして意欲的に取り組んでいることが分かった。

書いてよかったという理由(全校児童に対する調査)

- ・観察したことが分かりやすく書けるようになった。書くことが増えた。
- ・調べたことをまとめて分かりやすく書くときに、構成の学習が役に立った。
- ・自分の意見や考えを書くことによって正しく伝えられるようになった。

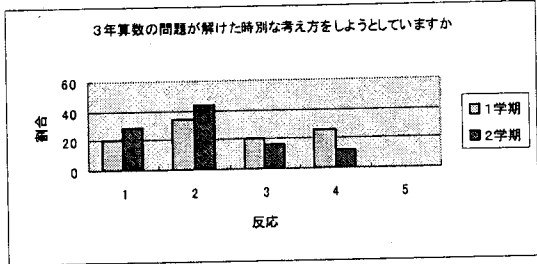
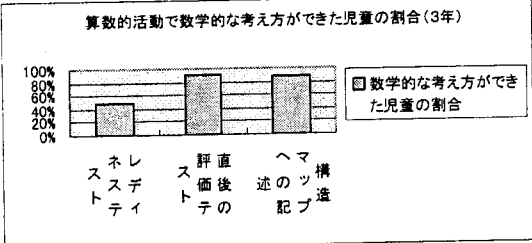
(2) 算数科における取り組み

仮説1 単元の導入の段階において、算数的活動を効果的に取り入れることにより、児童が自主的・意欲的に学習に取り組み、数学的な考え方が身につくであろう。

3年生の実践例では、レディネステストにくらべ、授業直後の評価テストでは90%、構造マップへの記述をみると80%以上の児童が数学的な考え方を身につけることができた。

また、「算数の問題が解けたとき別な考え方をしようとしているか」という意識調査では、「している」という児童が2学期には約80%に増加している。

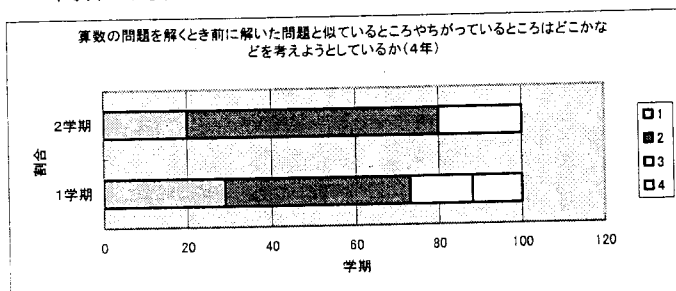
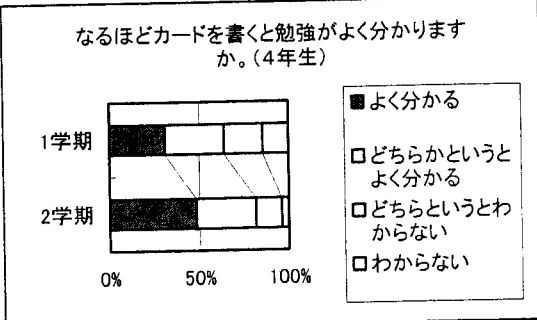
これらのことから、算数的活動を取り入れたことにより、児童は数学的な考え方が身につくとともに意欲的に学習に取り組むことができたといえる。



仮説2 学習のまとめの段階において、構造マップを書くことにより自己評価を行えば学習の内容が定着するであろう。また、構造マップを活用して課題解決に当たれば、数学的な考えが深まるとともに、学んだことを活用して自分の力で問題を解決しようとする態度が育つであろう。

時間ごとのまとめや振り返りを「構造マップ」に自分の言葉で書くことによって、勉強が「よく分かる」「分かる」と答えた4年生児童が、1学期は63%だったが、2学期は、81%に増加している。

また、「復習ができる」「勉強のまとめができる」「忘れたことを思い出すから便利」「やったことを振り返ることができる」など、なるほどカードを学習に役立てていることが分かる。これらのことから、「構造マップ」は学習の内容を定着させることに有効であるといえる。



なるほどカードについての児童の感想

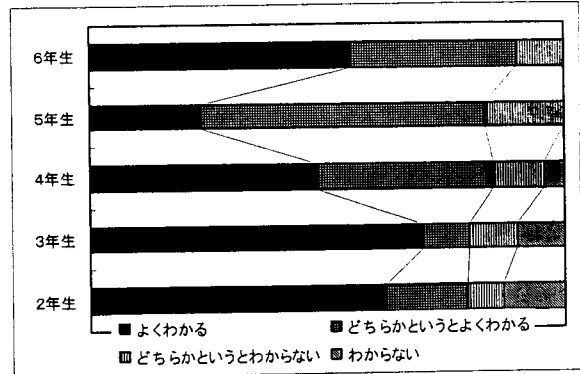
- ・復習ができる。
- ・テスト前などに見るとよく分かる。
- ・勉強のまとめができる。
- ・忘れたときに思い出すから便利。
- ・やったことを振り返ることができる。
- ・学習の記録ができる。

仮説3 単元に応じて指導形態を工夫し、個に応じた指導を行えば、基礎・基本の学力が定着するであろう。

習熟度別・コース別・等質の少人数指導を行った結果、クラスを二つに分けて勉強すると80%以上の児童が「よく分かる」「どちらかというによくわかる」と少人数指導を行っているどの学年でも答えている。

特に6年生では、90%の児童が少人数ですと勉強が分かると答えている。

これらのことから、課題別少人数指導、習熟度別少人数指導、課題別少人数指導で個に応じた指導を行えば、基礎基本の力を身につける上で大変有効であるといえる。



(3) 小中連携の取り組み

仮説 小学校における教科担任制の充実と小中連携による授業の充実、児童生徒の異学年交流の推進を行うならば、確かな学力が身につく小学校から中学校への滑らかな移行が行えるであろう。

5・6年生の国語・算数において教科担任制に取り組んでいる。教科担任制2年目の6年生児童の意識は、昨年は、肯定的な児童は、59%であったが今年度は、85%に増加している。

小・中連携による「出前授業」で中学校の先生や授業の進め方についての理解が深まったと考えられる。また、小中連携をして授業研究をしたり、それぞれのつまずきの交流をしたり、小中9年間のカリキュラムについて検討したりする中で、教師の意識が変わり、授業改善に結びついてきた。

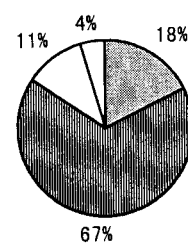
さらに、小学校では数学的な考え方を育てるために、小学校は「構造マップ」、中学校は「Sマップ」を使って学習を進めたり国

語科においては、根拠を明らかにした論理的文章を書くことに小中ともに取り組んでいる。小中で認識を育てる方法を共有することで、中学校へ滑らかに移行できると考えられる。

こうした取り組みをすることで小学校の児童の中学校への期待も高まってきている。

したがって、教科担任制の導入や小・中が出前授業を行い、指導方法を共有したり授業改善をすることは小学校から中学校への移行を滑らかにすることにつながると考えられる。

教科担任制について

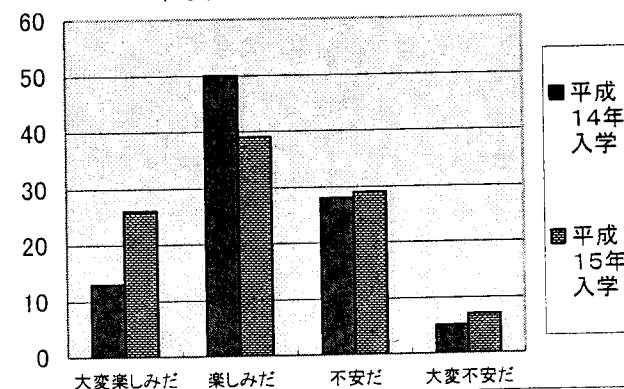


- 教科担任制がよい
- ▨ どちらかという教科担任制がよい
- どちらかという担任の先生がよい
- 担任の先生がよい

出前授業を通しての小学校の教師の感想

- ・ 専門的な知識を持つ中学校の教師と授業をすることで、研修を深めることができる。
- ・ 9年間の見通しをもった指導のあり方の研修ができる。
- ・ 中学校の生徒のつまずき（小学校から）を交流することで、指導の見直しができる。

割合 中学入学後の意識調査



出前授業を通しての中学校の教師の感想

- ・ 入学前から児童との人間関係ができるので、入学後の活動にスムーズに移行できる。
- ・ 小学校の思いや学習の流れ、課題を知ることで、相互理解や共通認識に立った指導ができるようになった。
- ・ 小学校とのTT授業の打ち合わせを通して、授業展開の細かなステップ等、授業の工夫改善につながった。

2 今後の課題

(1) 国語科

- ・観点カードや話し合い活動などにより、取材の広がりは見られるようになった。しかし、考える力が十分ついてきたとはいえない。今後は、考える力を育てていくための取材カードや話し合い活動を工夫する。
- ・十分に相手に分かりやすい文になっているとはいえない。したがって、自分の思いを確かに表現するために、他者の視点を取り入れた授業の工夫が必要である。
- ・書いたことを生かす場や機会をカリキュラムの中に位置づける。

(2) 算数科

- ・数学的な考え方を育てていくための算数的活動の工夫や構造マップの活用の方法の工夫する。
- ・子どもが主体的に取り組んでいくための算数的活動のあり方を考えていく。
- ・基礎・基本の力をつけるために、個に応じた指導、指導体制の工夫、繰り返し学習のあり方、形成的評価のあり方を考えていく。

(3) 小中連携

- ・小学校から中学校への移行を滑らかに行えるための小中統一した指導方法のあり方を研究する。
- ・人間関係力を育成するための小・中の異学年の交流のあり方を研究する。
- ・小学校での教科担任制のあり方を研究する。

IV 学力等把握のための学校としての取り組み

- ・学力到達状況把握のための定期的な学力調査の実施
CRT学力検査（4月）、広島県基礎基本定着状況調査（6月）、算数科全領域評価テスト（1～2月）
単元末テスト・形成テスト
- ・取り組みを振り返るための教科内容に対する児童の意識調査、アンケートの実施（4・7・12・3月）
- ・研究仮説を検証するための授業の分析・考察（月1～2回）

V フロンティアスクールとしての成果と課題の普及について

1 (1) 公開研究会の実施

日時：平成15年7月2日

場所：千年小学校

テーマ：基礎・基本を身につけ、自ら学び自ら考える児童の育成

— 国語科・算数科の指導方法・カリキュラム等の工夫を通して —

対象：沼隈郡内教職員

(2) 公開研究会の実施

日時：平成15年11月28日

場所：千年小学校

テーマ：基礎・基本を身につけ、自ら学び自ら考える児童の育成

— 国語科・算数科の指導方法・カリキュラム等の工夫を通して —

対象：広島県内・県外教職員、千年小学校保護者

(3) 研修会の実施

日時：平成15年12月18日

場所：千年小学校

テーマ：構造学習の理論と実際

会の目的：「構造マップ」に関わる研修をし研究を広める。

対象：沼隈郡内教職員

2 研究成果普及のためのHP作成

国語科と算数科における研究実践をホームページに掲載している。

3 パンフレット作成等の実績

公開研究会において研究紀要作成国語科において取材カード・構成シート集の作成，算数科において構造マップ（なるほどカード）集（CD）を作成し，研究会当日参加者に配布した。

4 フロントティアティーチャーとしての研究成果普及のための活動実績

- ・福山地区学力向上フロントティア推進協議会で実践の成果を発表（8月19日）
- ・福山地区学力向上フロントティア推進協議会で実践の成果を発表（2月5日）

5 研究成果の普及活動の成果

- ・研究会当日，県内はもとより，全国から多数の参加者があった。
- ・研究冊子や資料を希望する学校が多数あった。
- ・他校でも取材を豊かにするための，観点のあるカードを取り入れた授業が行われている。

◇ 次の項目ごとに，該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

- 【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校
- 【学校規模】 6学級以下 7～12学級
 13～18学級 19～24学級
 25学級
- 【指導体制】 少人数指導 TTによる指導
 一部教科担任制 その他
- 【研究教科】 国語 社会 算数 理科
 生活 音楽 図画工作 家庭
 体育 その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無